

平和の実現のカギは母親たち

アフガンから熱いメッセージ

全国の「お母さん」たちにアフガニスタンからメッセージを送ります。「新しい世紀」の展望と希望が語られたのは、ほんの最近のことでした。それは戦争に明け暮れた過去の血なまぐさい20世紀のできごとを反省し、平和への祈りを込めるものでした。幾百万の同胞の血と、それに倍するア

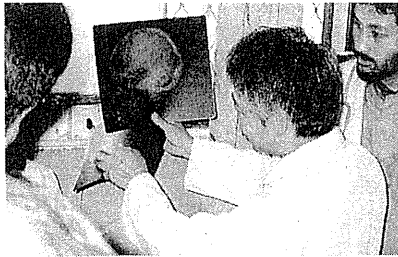
日本母親大会で記念講演する、ベシヤワール会・現地代表の中村医師からメッセージをいただきましたので紹介します。

日本母親大会で講演



中村哲 医師・ベシヤワール会現地代表

7月28日(日) 10:00~15:30
西日本総合展示場 (小倉北区)



医療活動する中村医師

ジアの同胞の犠牲の上に、「平和日本」が高らかに謳われたのはほんの半世紀前だったのです。
しかし、今現地で進行している事態は、やがて日本でも起こりうる、戦慄すべきものであります。それは、いのちを軽視し、経済的な動機や政治的な目的のために、いとも簡単に大量の殺傷を正当化する論理の復活であります。多くの母や子が死にました。飢えに倒れ、爆撃で殺傷されました。「背に腹は替えられない」という理屈で、私たちはいかに多くのものを失ってきたことでしょうか。
平和の実現のカギは、母親たちの協力にあります。母性こそいのちの本質につ



井戸を視察する中村医師

ながるものです。そこには男たちの蛮行に抵抗しうる無条件の生命への肯定があるからです。それはまた、真の意味で「人間教育」につながるものです。もし、人が人である限り変わらぬ希望を語るとすれば、母たちが「いのち」をいとおしむ理屈ぬきの感性にありま

ぜひ、ご参加を

この事実を大切にし、このようなすすんだ世相であればこそ、みなさんの願いを力に変えて邁進されることを祈ります。
2002年6月11日
アフガニスタンにて
中村 哲

アフガニスタンは、タリバン崩壊後、再び社会主義政権倒壊直後にもどり、麻薬栽培や飢餓で無秩序状態になっていきます。
日本母親大会での中村医師の講演は、現在のアフガニスタンの現状などを聞くことができます。ぜひ、日本母親大会にお越しください。

●中村哲医師プロフィール

○1946年福岡市生まれ。九州大学医学部を卒業。国内病院勤務後、1984年ベシヤワール会赴任。若松区出身の作家・火野葦平は叔父にあたる。
○2001年からはアフガニスタンの首都カブールに5つの臨時診療所を設置、貧困地区の診療を行う一方、大干ばつに見舞われたアフガニスタン国内の井戸と水路(カレージ)の掘削と復旧に従事。2001年10月には「アフガニのいのちの基金」を設立。空爆下、国内避難民への緊急食糧配給を実施。PMSの現地スタッフ225人、日本人スタッフ10人。年間診療数30万人。



環境を守るため再生紙を使用しています。